

議事概要

会議の名称	令和3年度第3回三田市総合教育会議
開催の日時	令和4年2月24日（木）10時00分～11時30分
開催の場所	三田市役所本庁舎3階 302A B会議室
出席した委員の氏名	森哲男市長、鹿嶽昌功教育長、大野裕己教育委員、三木尚美教育委員、 中上之仁教育委員、中野文雄教育委員
出席した職員の職及び氏名	〈事務局〉 岸本子ども・未来部長、松下学校教育部長、 横溝子ども未来室長、西垣戸子育て応援室長、外岡学校教育部次長、 松本幼児教育振興課長、久後幼児教育振興課参事、浅野教育総務課長、 上野教育総務課学校再編担当課長、山本学校教育課長、小山教育研修所長 田中すくすく子育て課係長、増田幼児教育振興課係長、田村すくすく子育て課事務員
傍聴人の人数	3名
議題	(1) 協議事項 ①三田市立幼稚園の再編計画について ②第2期三田市教育大綱（案）について
会議の概要	P2～P9のとおり
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	【資料1-1】三田市立幼稚園再編計画の策定及び市民意見の募集結果と対応について 【資料1-2】パブリックコメント手続による三田市立幼稚園再編計画（案）に対する意見の内容と市の考え方（概要及び個別） 【資料1-3】再編計画修正箇所 【資料1-4】三田市立幼稚園再編計画 【資料2-1】第2期三田市教育大綱の構成（案）について 【資料2-2】第2期三田市教育大綱（案）
連絡先	子ども・未来部 子ども未来室 すくすく子育て課 電話（079）559-5079

1. 開会

【横溝室長の司会により開会、配付資料の確認等】

【三田市総合教育会議の運営等に関する規程第4条第5項に基づき議事進行を森市長に交代】

【市長挨拶】

2. 議題

(1) 協議事項

① 三田市立幼稚園再編計画について

〈西垣戸室長から説明〉

森市長：ただ今の説明につきまして質問、あるいはご意見がありましたらお願いしたいと思えます。

中上教育委員：子どもたちの数が減少しており、少人数で実施するのも大変いいことなのですが、やはり再編して地域を活性化し、また子ども同士が園庭で遊べる環境や社会性をつくっていく環境をつくっていかないといけないと思うので、進めていってもらえばよいと思います。

松本課長：今ご意見をいただきましたように、子ども同士が遊ぶことができる環境をつくっていくための再編計画です。安全な環境の中で実行できるよう取り組んでいきたいと思っております。

大野教育委員：資料1-2のパブリックコメントの多様な意見を読ませていただきました。

義務教育が終わるときに保障する社会性、協同性、その芽生えとしてどうするかということを見ると、市としては「再編」はやむを得ないかなと思ったところです。今後大事にすべきことといえば、やはり社会性や協同性を大事に育てていくということであり、その条件をできるだけ整えていただきたい。具体的には、資料1-4の再編計画案9ページにある「認定こども園の運営方針等の決定」の地域との関係などがあげられると思います。今回の再編で新たな認定こども園に地域の方々が関わっていける、そして園の支援を行っていけるということを大事にしていきたい。学校教育施策で言うと、「地域とともにある学校」という言い方をしますが、そういった参加・支援で教育を充実していく仕組みを園としてもつくっていくこと、参加できるようにすることを大事にしてほしいと思っています。【協議が必要と想定される事項】で、運営方針で地域との交

流・連携の継続性の確保と書き込まれていますので、案としてはこのとおりだと思います。運用としては、「地域とともに」というところをより大切にされて、これまで関わってこられた方々にも、地域で大切な子どもを育て、協同性それから社会性を育てていくことに関わっていただきたいなと思っています。つまり、地域の関わりというところを運用としても充実させてほしいという意見として捉えていただければと思います。

久後参事：ご意見をいただきましたように、これまで公立幼稚園は地域の方々にたくさんお力添えをいただいて園を運営し、保育内容を充実してきました。いろいろなご意見を大切に受け止めながら、認定こども園を運営していく際にも地域の関わりを活かしていきたいと考えております。

三木教育委員：地域の方々の思いのこもったご意見に対して熱心に考えられているなと思いました。今回2か所の認定こども園を設置されるという案で、保育の機能も兼ね備えるということですので、より安心で魅力のある地域になると思っています。三田市への移住を考える若い人たちにとっても、魅力のある農村地域になると思っています。三田市はつながりを大切にしている市であると思っています。再編されることで地域が広がりますので、より資源も増え、よりつながりも増えていくと考えられるのではないかと思います。そして地域の人たちの安心も増えていくのではないかと思います。

松本課長：地域の方々とのつながりは、エリアが広がることで多様な方々との関わりがもっと広がるのではないかと思います。今後、運用方針を決めるときにも、多くの方々に関わっていただきながら子どもたちにとって地域とのつながりがよりよい実のあるものになるように努めていきたいと思っています。

中野教育委員：この再編計画案やパブリックコメントを見せていただき、地域の方々の思いが述べられているということを感じました。ただ、幼稚園は教育の場という一つの視点で考えれば、子どもの学びをどう保障していくのかという点で考えていかななくてはならないということを感じました。若者が定着し地域が活性化していく中で、人間の大事な基礎の部分である最初の幼児教育をどう丁寧に扱うかということが、この再編計画の中に盛り込まれていくことが大事だと感じました。地域の中で支えられているこの三田市の教育のいいところをどうこの中に盛り込んでいくかということが、今後とても大事になってくると思います。物理的に人数が減っていくことにどう対応していくのかという再編計画については、理解できると感じました。適正な少人数教育は適正な集団があつてできるものでもあり、子どもたちに関わる幼稚園、あるいは認定こども園としての質を高めていく必要があると思います。また、特別支援教育においては、きめ細かな支援

をどのようにしていくか。それから、例えば幼稚園の跡地の活用などにより地域と家庭とが連携するような新たな環境がつけられたらいいなと思いました。コミュニティが広い園区の中で、何か新しいことが展開できるような方向性がこの計画に見えてきているような気がしました。

久後参事：委員からお話いただいたように、幼児期の教育は人格形成の基礎を培う大切な時期です。幼稚園教育において集団の中での学びは欠かせないと考えております。活動に応じて意図して少人数のグループ活動を取り入れるなど多様な経験ができるのも、やはり集団があつてのことだと感じております。特別支援教育についても、これまでも公立幼稚園で多くの支援が必要なお子さんを受け入れてきました。その中で高めたスキルを大切にしながら、これからも特別支援教育についての研修等を進めて、一人ひとりの子どもに応じた支援ができるように取り組んでいきたいと考えております。

松本課長：跡地の活用につきましても、地域の方々が新たにどういった関わり方ができるかというところもご提案できればと思っておりますので、皆さんと協議をしながら取り組んでまいりたいと考えております。

鹿嶽教育長：私も資料1-2について、パブリックコメントに対する様々な意見がある中で、市としての考え方をかなり丁寧に返していただいていると思えました。計画案の修正については、パブリックコメントにあります「2号認定に関すること」で、優先的に2号認定を入れてほしいというご意見に対し、入園を希望する子どもの保育の必要性を指数化することによって必要性の高い子どもから入園ということを記載されていることは、明確に書かれていていいと思います。ただ、資料1-4の計画案8ページの予定定員の説明のところに書かれていますが、入園募集の考え方のほうに書いたほうがいいかなと思えました。今回、新たに就学前施設をゆりのき台で設置されますけれども、それにより2号認定の待機児童は減ります。そのことによって農村部での2号認定で子どもが入る余地が大きくなる。市として保育が必要な子どもたちの就学前の施設としての設備を充実することによって、農村部における公立の認定こども園のほうにも優先的に入りやすくなるということなので、市全体で取り組む必要があるのかなと思っております。ただ、教育委員会で子どもたちの人口推計をしています。子どもたちの数が減っていく中で、2号認定も含めた就学前施設の定員の管理は非常に気をつけていく必要があると思っております。それから、今後の取り組みとして考えていけないといけないのは、今現在、公立の幼稚園は10園ありますが、ほとんどの幼稚園は年長、年少合わせて園児数が10人前後です。就学前施設のほとんどが民間です。公立の幼稚園は本当に園児数が少ない。資料の表にもありますけれども、5歳児で卒園するのが100人程度で、小学校に入学してくるのが1,000人弱ということなので、公立の幼稚園からの子どもたちは1割程度

ということです。三田の就学前の子どもたちの姿をどのようにしていくのかということは、それぞれの園が考えることではなくて、市としてはこういう子どもを育てるのだという考え方が必要だと思っています。そして、主導的に行うのはやはり公立でないといけないと思っています。三田や三輪の幼稚園については一定の子どもたちの人数がいる中で、先生方も経験を積んできているということですが、園児数が10名前後の小規模園での先生自身の学びで、9割を占めるほかの民間や保育園の皆さんを主導する立場として本当にうまく機能するのかというのは以前から心配していました。今回の再編計画で一定の規模の子どもたちが集まることによって、子どもたち自身も社会性や協同性が培われるとともに、教育を担当する幼稚園教諭などの保育者が自分自身も学んでいく中で三田の就学前教育を主導できる立場に育つ機会にもなると考えています。当然、今回の再編については子どもたちの就学前の学びということを第一に考えなければいけないことなのですけれども、一方で、教育委員会としては、幼稚園教諭などの保育者の育成ができる体制をより強固につくり、就学前から義務教育への接続に取り組んでいけるような仕組みづくりに今後力を入れていきたいと思っています。

西垣戸室長：資料1—4の8ページの※の部分について、上部の表の予定定員である30人あるいは25人のうち、5名は2号認定の子どもさんであるということを明記したほうが分かりよいのではないかという趣旨でここに書かせていただいているところです。検討させていただきますまして、教育委員会等でその考え方についてご報告をさせていただきます。

森市長：教育長からもご指摘がありました。人材育成について、委員のほうでご意見がございましたらお願いします。

三木教育委員：公立の幼稚園の先生方にリードしてほしいと教育長が言われましたけれども、特別支援教育に関しましてもリードしていただきたいという強い思いを持っています。これから共生社会を目指していく中で、公立の幼稚園がインクルーシブ教育の実践をされていると感じております。その実践を三田市全体に広げ進めていただきたいという思いがありますので、よろしくお願いたします。

中野教育委員：以前から幼小の連携ということをととても大事に考えてきた経過があると思います。特に公立幼稚園と小学校との関係というのは、就学に際してのスムーズな連携、接続ということをととても大事にされており、そのことをもとに、私立の幼稚園等も含めた中で展開されているのが今の三田の原動力になっているのではないかと思います。とてもスムーズな連携が、各中学校区で広がっていると思っています。その中で、教職員の資質向上ということを考えていけば、当然スキルのことも必要ですし、多様なニーズに応じてどのように就学前教育と義務教育をつないでいくかということを考える場になって

いくのではないかと思います。

松本課長：公立幼稚園には、資料1-4の2ページ「これからの市立幼稚園のあり方」というところで記載をさせていただいている4つの役割がございます。そのうち②特別支援教育の充実や、④幼児教育のセンター的機能の充実をより具体化をしながら市内全体の就学前教育・保育施設における市立幼稚園のあり方、役割を発揮していくための再編計画にしなければいけないと考えております。

大野教育委員：幼稚園や就学前施設の先生方の働き方の課題もありますし、多様なニーズへの対応の課題もありますので、力量形成機会を含めてマンパワーの充実は可能な限りの努力をいただきたいという思いです。

森市長：それでは、今後、スケジュールに基づきまして、再編計画の策定手続を進めていただきたいと思います。

②第2期三田市教育大綱（案）について

〈横溝室長から説明〉

森市長：事務局から前回委員から修正の意見が出た部分を反映した大綱の構成と、基本方針の1、2、3の記載について説明がありましたが、質問またはご意見がありましたらよろしくお願ひします。

中野教育委員：生きる力というのがとても大事になってきており、いわゆる持続可能な社会を形成する担い手をつくっていくことがとても重要になってきています。小中一貫教育という部分を充実させ、培ってきている連携の教育を次に発展させていくような視点が出されているのではないかと思います。それから、教育・福祉との連携というところで、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを積極的に活用し、家庭教育や、家庭支援、児童支援を中心とする組織的な体制が述べられていると感じました。新しい教育の価値に向けたそれぞれの方針が示されていると感じました。

外岡次長：小中一貫教育を今後目指していく必要があると教育委員会でも考えているところでございます。中学校区内の保幼・小・中の施設・学校が同じ研修をしたり、子どもの将来像を共有したりしながら取り組んできました。それをさらに一歩進めて、小中一貫教育、小学校と中学校9年間の学びというところを少し強調する形にしております。子どもが

義務教育を卒業するまでの育ち、学びといったものを一貫的に捉えながら取り組む必要があるということで、今後の重要な課題として進めていきたいと考えているところでございます。また、福祉と連携した取り組みも、既に家庭児童相談室や県の相談機関とも連携しているのですが、今後より一層取り組むことができたらと思っております。

三木教育委員：「一人一人を大切にする教育の推進」のところで、インクルーシブ教育と共に生きる教育を加えていただいております、3ページにも詳しく説明書きをしてくださっているのので分かりやすくなっていると思えました。これから共生社会の実現に向けて進めていただきたいと思います。一緒に学び育っていくということですが、同じようにできない子どもたちにとって何が重要かという、やはり環境づくりや合理的配慮だと思えます。学校でもインクルーシブ教育ということがまだまだ難しい状況もありますけれども、工夫して共に生きる、学べる環境づくりを進めていただきたいと思います。また、不登校のお子さんも増えていると聞いております。必要な支援体制、相談をできる体制づくりが必要だと思っております。相談する場所はいろいろあると思うのですが、分かりやすくみんなが気軽に相談しやすい体制づくりをお願いしたいと思います。

森市長：三木委員からの提案を受け、今回、共に生きる教育というのを入れさせていただきました。今現在審議しております総合計画の中では、人権共生社会というのを大きな柱にしていますので、相通ずるところがあると思っております。

松下部長：教育の中では共に生きる教育が大切なものだと考えております。三田は、ひまわり特別支援学校という、小学校、中学校と特別支援学校を併設した学校を設置しながらインクルーシブ教育の充実を進めているところです。特に子どもたちが共に学ぶ環境をより良くするために、個別の指導計画の中においても、一人一人の状況に応じてどのような協働学習が大切なのかという目標も設定しながら進めているところです。今後も、ひまわり特別支援学校というセンター的機能を保有している学校を中心として市内の学校全部がインクルーシブ教育の充実に向けて取り組んでまいります。また、合理的配慮についても、個別の指導計画等に具体的に書いていき、切れ目なくできるように努めていきます。相談しやすい環境ですが、いろいろな不安を抱えている保護者がおられますので、安心して相談ができる市の機関や学校のコーディネーターを中心に体制をつくってまいります。

大野教育委員：前回、私が出した意見を受け止めてくださって、教育と福祉の連携という示唆を入れていただき大変尊く思っています。一人一人を大切にする教育の推進というところが厚くなったのではと賛意を持っております。あえて言えば、学校支援ということで、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが入って、学校現場の働き方改革

と矛盾しない形で学校での課題解決を高めていくところに向かっていけばという思いがあります。他の関連する計画、例えば教育振興基本計画で取り上げられて、現場の先生方の頑張りと同輪の形で進んでいくといいなという思いを持ちました。

浅野課長：教職員の働き方改革に関することですが、現場の頑張りと専門性を生かした関係機関、あるいは役職の方と連携を深めながら働き方改革というのを進めていくことが大切なことだと認識しております。やはり、働き方改革というのは先生方のスキルアップが一番大切であり、そのための時間を確保する。そのための連携と考えておりますので、そういった計画と考え方を生かしながら、今後進めてまいりたいと思います。

中上教育委員：基本理念の「夢を育て、人を育む学びのまち三田」というところですが、夢を持てるような環境が必要かと思います。オリンピックで金メダルをとった人を三田に呼んで講演してもらおうとか、ノーベル賞を受賞した人に講演してもらおうとか、実際に来てもらい身近に感じてもらって子どもたちが夢を持てるような環境づくりをしていただきたい。また、三田の教育がすごいぞということを市内だけでなく市外にPRして、子育ては三田でとPRしてもらいたいです。

横溝室長：子どもたちに夢を持てるような環境づくり、活躍されている人たちを呼ぶというようなことにつきましては、次回にご協議いただきます基本方針5の(2)生涯スポーツの推進のところ、また、今回ご議論いただきましたこうみん未来塾の中で反映させていただくとともに、そこにかける思いを次回に見ていただきたいと考えております。また、市外にも三田の教育がすごいところをPRしていくということについては、例えばこうみん未来塾に関して言いますと、全国的に取り上げていただいております。教育委員会とも相談しながら、この大綱に載せていきたいと思います。

鹿嶽教育長：大綱の2ページ方針1の(2)、育ちと学びをつなぐ教育の推進の部分ですが、教育振興基本計画も教育は知・徳・体だということで、そのまま受けていただいてここに掲げていることはいいと思います。次の保幼・小・中学校園の連携強化の部分と、小中一貫教育の充実の部分ですが、これも教育振興基本計画でもそのような言い回しをしています。子どもたちをどのように義務教育が終わった段階まで育てるのかということ、子どもの姿と小学校、中学校をそれぞれ連携するのではなくて、一貫した教育を進めていくという書きぶりが必要かと思います。保幼・小・中と義務教育9年間は小・中一貫教育を別々に掲げているけれども、1つの項目の中で書ききった方が、就学前から義務教育を終わる中学3年生までの子どもの育ちというのは教育大綱ではこういうふうに考えていますと掲げるのがいいのかなと感じました。そして、4ページの方針3、新しい時代の教育環境の整備の部分について、〈小中学校の適正規模・適正配置の検

討) となっていますが、文章には学校再編に取り組みますと明言されているので、検討よりも推進と書いていただくほうがいいかと思いました。その次の、〈小中一貫校など新たな再編の枠組みの検討〉とありますが、小中一貫校をつくって学校再編をするのではなくて、小中一貫教育を推進する中で小中一貫校といった義務教育学校ということも一つの選択として検討をしていくような書きまわしに変えたほうがよいと思います。このことは、教育振興基本計画もパブリックコメントのご意見をいただき少し修正して表していますので、調整していただきたいと思います。最後にもう1点、5ページの個別最適な学びと協働的な学びの提供を丁寧に表現していただいているところはいいのですが、〈GIGAスクールへの対応(デジタル技術の活用)〉が、個別最適な学びと協働的な学びはGIGAスクールで実現する、のようになるのですが、そうではない部分もあります。この子にはどんな学びが必要なのかと個々に分析する中で、GIGAスクールを導入することによって実現できるということです。項目立てを少し検討しないといけないかと思っています。以上、3点です。

森市長：教育振興基本計画とも関連をしますので、言葉の整理をし、次回に修正した案でもう一度議論をさせていただきたいと思っております。そして、方針の4及び5と合わせて議論をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上で、予定しておりました議事を終わらせていただきます。本日も闊達なご意見をいただきました。熱く感謝申し上げます。

横溝室長：長時間にわたり熱心にご議論いただきありがとうございました。今日の会議はこれを持ちまして終了いたします。次回は3月24日(木)を予定しております。本日は誠にありがとうございました。